

婦負の野



ISO9001認証取得

〒930-0143
富山県富山市西金屋6682番地
社団法人めひの野園
TEL.076-436-0270
発行責任者 中田 匡
(表題書)
富山県中川上町3の31
(表・社通) 萩水先生

新グループホーム「なでしこ」特集号

まっ白な梨の花

なでしこの花

理事長 中田 匡

東日本大震災から10年の歳月が流れた。

先月3月25日には、東京五輪の聖火リレーが、東京電力福島第一原発事故の対応拠点だった「Jヴィレッジ」を出发した。第一走者は、この大震災後のサッカー・ワールドカップで優勝した日本女子代表「なでしこジャパン」のメンバー16人が務めた。

前置きが長くなったが、当園では9箇所目のグループホーム「なでしこ」が、4月1日に開所した。

なでしこが 花見るごとに 少女らが
笑まひのほひ 思ほゆるかも

現代語訳では、「なでしこの花を見るたびに、あの愛おしい少女の、美しく照り映えるような微笑みが、思い出されてならない。」となる。寮名の「なでしこ」は、万葉歌人「大伴家持」のこの短歌から拝借した。家持が越中に国司(くにのつかさ)として単身赴任して3年目の5月26日に、ひっそりと庭に咲くかれんななでしこの花を見て詠んだものである。この歌に詠まれた少女とは、奈良の都に残してきた家持の妻のことである。

何かと生きづらい世の中ではあるが、「なでしこ」での生活が始まる7名の少女たちが、今後、幸せに過ごせるようにそっと見守っていこうと思っている。

めひの野園の今日のニュースと明るい明日を紹介します!

あしたのめひの

第19回

新グループホーム
「なでしこ」のこれから
～梨の木苑の職員に座談会インタビュー～



梨の木苑の5名の職員が集まり、座談会形式で新グループホーム「なでしこ」のこれからについて話し合いました

4月1日、新グループホーム「なでしこ」が開所しました。「なでしこ」は女性利用者の保護者からの要望によって実現した、めひの野園の9箇所目のグループホームです。今回は、梨の木苑職員5名に、「なでしこ」の今後の展望を聞きました。

Q. 新グループホーム「なでしこ」の特長を教えてください。

中村聡 当園9箇所目のグループホームという事で、これまでに培ってきた支援のノウハウを活かし、自閉症の方の支援に特化した造りになっています。また、「なでしこ」という名から想像出来るように、「女性専用」のグループホームになっています。

Q. 新グループホームの立ち上げから開所までには苦労もあったのでは?

中村聡 まずは入所を希望された保護者の皆さんに、「いわせの」や「つまま寮」といった、当園のグループホームを見学してもらおうことから始めました。月に1回「グループホーム建設委員会」を開催し、保護者や園職員、設計事務所の担当者の

方々と意見を話し合いました。話し合いを重ねる度に、保護者の皆さんのお子さんへの思いが伝わってきました。津嶋 利用者さんそれぞれの個性やこだわりに配慮し、より過ごしやすい生活の場となるよう環境や日課の設定をして来ました。これからは実際に利用してもらいながら、さらに工夫を重ねていけたらと思っています。

Q. 「なでしこ」はどんなグループホームになっていくのでしょうか?

津嶋 これから特色が出て来ると思いますが、今の印象ではのんびりとした穏やかなグループホームになりそうです。

北川 「つまま寮」の世話人をして4年が経ちますが、開所当初に比べ、利用者さんの生活習慣やこだわりも変化しているように思います。その都度対応しながら、皆さんの生活しやすさを考えて、改善していけばよいと思います。



北川支援員



津嶋支援員



中村聡支援員

Q. 利用者さんにとって、どんなグループホームになってほしいですか?

津嶋 すぐに新しい生活の場として定着するとは思っていません。無理なく、ゆっくり時間をかけて、落ち着ける場所になってほしいと思います。保護者の皆さんの話を聴くと、「家の中でも誰かと一緒に過ごしたい」という利用者さんが多かったので、夕食後の団らんが憩いの場になればと思っています。

中村聡 利用者さんそれぞれが、日中活動の場へ張り切って出かけて行き、帰って来たらホッとできるような、第二の自宅になってほしいと思います。

密山 「世話人」という初めての仕事に不安もありますが、それは新しい生活が始まる利用者さんも同じこと。一人ひとりと向き合いながら、皆が初めてのことを体当たりで頑張っていこうと思っています。そして、ゆっくりと信頼関係を築き、穏やかに楽しい生活を送ってもらえたらと思っています。



密山世話人



中村愛支援員

梨の木苑職員の皆さんのお話はとても頼もしく感じました。
記・広報委員会 柴田 香菜江



3月31日(水)、春らしい爽やかな青空の下、めひの野園の和太鼓サークル「喜楽太鼓」の演奏で始まった「なでしこ」の内覧会。



コロナ禍につき式典は行わず、内覧会のみでの披露目となりました。来園された皆様には検温、手指の消毒をしていただいた上、出来る限り密状態を避けるために、建物の中に入って頂ける人数は一度に10人までと制限させて頂いていただきました。



「なでしこ」内覧会

新グループホーム
「安心して過ごせる」
女性専用のグループホーム



食堂のテーブル、椅子は当園の「家具部門」、テーブルの上には並べられた食器セットは「漆・芸班」でそれぞれ製作されました。「自分達で使う物は自分で作るう」という思いが込められています。



食堂の大きく開かれた窓から目に入るのは満開の桜。そして遠景には新湊大橋に富山湾と、最高の見晴らしです。



御覧のように、利用者さんの個室の扉はそれぞれの好きな色に色分けされています。廊下の白いフローリングと相まって、カラフルでもとても明るい印象の内装に仕上がりました。



内覧会にお越しいただいた皆様には、めひの野園ならではの品々が入った記念品が手渡されました。

大きな窓から光が差し込み、とても明るいグループホームです。
記・広報委員会 岡崎 秀徳



「めひの野園らしさ」あふれる記念品を作りました!



記念品袋の中には「みしまの工房」で製作されたものを始め、心のこもった品々が詰められています

「私たちの出来ること」を形にして届けたい

新しいグループホーム「なでしこ」の内覧会では、各事業所自慢の品々が入った、めひの野園ならではの記念品袋が用意されました。

「なでしこ」開設でお世話になった皆様、今後お付き合いいただく地域の皆様へ手渡された、感謝の気持ちが入った記念品の内容をご紹介します。

主に手工芸品を製作している「みしまの工房」では、各班で作られた商品を取り揃えました。

漆・芸芸班では、古来から「魔除けの縁起物」とされる、ひょうたん形の漆塗りの皿を製作しました。また、手芸班では刺し子ふきんとコースターのセット、はたおり班では、昔ながらの懐紙入れ、おい袋、小物入れやコースター、そして陶芸教室の小皿が加わり、これらの中からいくつかをセットにして「みしまの工房」からの記念品としました。

中に入った品だけではなく、記念品に巻かれた「のし」や、卵の包み紙には「和紙班」の手すき和紙が使われました。「出来るだけ自分たちで作った物を記念品として届けたい」という思いが込められています。



和紙班の「手すき和紙」で作った「のし」(上)と、卵のラッピング(下)

「いれぞめひの野園」自慢の品々が勢揃い



県産小麦粉「ゆきちから」を100%使用して作った「紅白サブレ」

そして「作業センターふじなみ」からは、定番の菌床しいたけ、「ウオーム・ワークやぶなみ」からは、平飼いの鶏卵パックと飛騨地鶏カレール、「やねのうえのガチョウ」からは、おめたい紅白の手作りサブレ...と、「めひの野園のいいところ取り」と言える、豪華なラインナップになりました。

「私も欲しい」と思うほど、豪華な内容の記念品袋でした。
記・広報委員会 柴田 香菜江



群竹 muretake

めひの野園職員の雑感コーナー



梨の木苑生活支援員 中村 愛

これが「ますかけ線」!

皆さんは自分の手相をじっくり見たことはあるだろうか? 珍しい手相や、自信の手相の持ち主もいれば、そもそも手相を見たことがないという人もいるかもしれない。

実は私は、100人に1人いるかいないかという手相の持ち主である。その名は「ますかけ線」。この手相、聞いたことのある人もいるかもしれないが、とても珍しい手相なのである。戦国時代には「天下取りの相」とも言われ、かの織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の3人が揃ってこの手相だったと言われている。現代では男性の著名人に多いことで有名で、手塚治虫・イチロー・木村拓哉・明石家さんま等、才能ある人ばかり。そんな「ますかけ線」は片手にあるだけでも驚く手相なのだが、さらに珍しいのは女性で、しかも両手に持つ人なのだろうか。その貴重な人物が、なんと私なのである。良い事なのか悪い事なのか、この手相のおかげで私はまだまだ挫折を味わったことがない。

この手相の持ち主は、頑固で一途。変人でも変わったこだわりがあるらしい。言われてみれば全て自分に当てはまっているような気がする。興味の有無がはっきりしていて顔に出やすいこと、一度何かにハマると寝食を忘れて熱中したりもする。確かに自分でも変わり者だと思っ

「ますかけ線」を持つ人は30代半ばで実力を発揮したり、秘めた力が現れたりするそうだ。...ということは、私は30代のうちに驚くほど進化し、「天下統一」もしくは「芸能界に進出」しているのではないかと、という妄想が働き始めている。

皆さん、これから進化するであろう(予定の)中村愛に乞うご期待。

新規採用職員紹介

めひの野園に新たに採用された職員
6名の趣味や特技、抱負を紹介します

春の苑 生活介護班 生活支援員

みや た けい こ
宮田 圭子 (写真左)

趣味・特技：温泉巡り
抱負：これまで知的障害や発達障害の方の支援に携わってきましたが、自閉症の方についてもっと知りたい、学びたいという思いがあります。一人ひとりに寄り添う支援を心掛けて頑張ります。



春の苑 リサイクル班 生活支援員

はな ざき よし あき
花崎 良昭 (写真左)

趣味・特技：スポーツ観戦（特に大相撲、高校野球）。初対面でも気軽に話が出来る
抱負：人の気持ちを理解し、人として成長出来る仕事だと思います。利用者さん、利用者さんご家族、地域の方から信頼される職員になりたいと思います。



春の苑 生活介護班 生活支援員

いま れい な
今井 玲奈 (写真左)

趣味・特技：手芸、バドミントン
抱負：学生の時に実習やボランティアに参加し、福祉の仕事に興味を持ちました。皆さんと一緒に楽しく仕事をしていきたいと思えます。



看護師・生活支援員

さ とう のり こ
佐藤 憲子 (写真左)

趣味・特技：スポーツ観戦、肘の皮膚が伸びます！
抱負：入院した経験から、身近な看護を目指し、この道に進みました。めひの野園は近所なのにこれまでほとんど知ることがありませんでした。利用者さん、職員の方々と楽しく健康に過ごしていきたいです。



春の苑 生活介護班 生活支援員

うる ま いずみ
漆間 泉 (写真左)

趣味・特技：散歩、スポーツ観戦
抱負：めひの野園で実習やアルバイトをした際に、利用者さんと接するのが楽しく、この道に進みました。利用者さんの笑顔のために頑張りたいです。



春の苑 生活介護班 生活支援員

こ いけ ちなつ
小池 千夏 (写真右)

趣味・特技：映画鑑賞、ショッピング、お笑いを見る事
抱負：めひの野園を見学した時に、利用者さんが生き生きと働いている姿を見て一緒に働きたいと思いました。利用者さんが安心して過ごせるようによりよい支援を行ってまいります。



めひのキラリ！人

Vol.4



今回のキラリ！人
みしまの工房
はたおり班

吉田 優子さん

めひの野園では、「利用者さんの出来ること、得意なこと、好きなことを活かし、仕事につなげていく」ことをモットーに支援をしています。利用者さんの中には、自分の仕事に没頭するうちに素晴らしい技術を身に付け、いつしか「めひの職人」と呼ばれている人々がいます。そんな「キラリ！」と光る「めひの職人達」を紹介していきます！

昔は「お転婆娘」、今では「織姫」。今回の職人は人呼んで…

めひの「はたおり職人」。

みしまの工房には「和紙班」「手芸班」「ペレット班」そして「はたおり班」の4つの班があり、利用者さん一人ひとりの「出来る事・得意な事・好きな事」を活かし、主に手工芸品の製作に取り組んでいます。

まるで昔話に出て来るような織機を使い、パターン・ボタンとリズムミカルに手足

を動かしているのが「はたおり班」の吉田優子さん。優子さん専用用意された織機を扱う姿は真剣そのものです。



長年愛用してきた専用の織機

いつしか身に付いた、プロでも驚くほどの「織り」の技術！

「優子さんは大変優れた感覚の持ち主で、縦糸と横糸の間隔をほとんど均等に揃えて織ることが出来ます。これは私も真似出来ません」と話すのは、地域で手芸店を営みながら、当園の手芸教室の講師を務めている吉田啓子先生。当園がまだ無認可のプレハブ小屋だった頃から利用者さん達を温かく見守って来られました。「その頃の優子さんはとにかくお転婆で、高い所が大好きな女の子でした。体育館が完成し、2階を作業場に使っていた頃、前理事長の発案で卓上の織機を使い始めました。興味があつたのか、優子さんは実際に織る様子をじっと見て学んでいたようで、職員が横で教えるくても自然に織り方が身に付いていま

した」と、懐かしそうに話されます。「その能力が開花したのは、平成元年に『ひげの殿下』として親しまれた三笠宮寛仁親王が来園された時です。前理事長は、殿下に『手織りのふくさ』を贈ることを思い付き、京都から大きな織機を取り寄せました。優子さんにはこの大きな足踏み式の織機が合っていたようで、より高度な技術が必要とされる絹糸を使って「ふくさ」を織り上げた時は、当時の職員皆が驚いたほどです」。



手に取ってみると確かに柔らかい「優子仕様」のポーチ

素人目では分からないような特長を話すのは、はたおり班担当の柴田支援員。「力加減が絶妙なので、優子さんが織った布は手に取ってみると柔らかく、暖かみがある」のだとか。いつしか「優子ブランド」として世に知れ渡る日が来るの良いですね！

すごい技術の持ち主の優子さん。仕事を頑張った後のコーヒーが何より楽しみなのとか。記・広報委員会 岡崎 秀徳



しいたけくん

福祉の魅力を
現場から
突撃レポート!!

こんにちは
今日は「春の苑」の
生活支援員、
山本紗弥さんです。

生活介護事業所
うさか寮春の苑は、
利用者のみなさんの
日中活動を
支援しています。



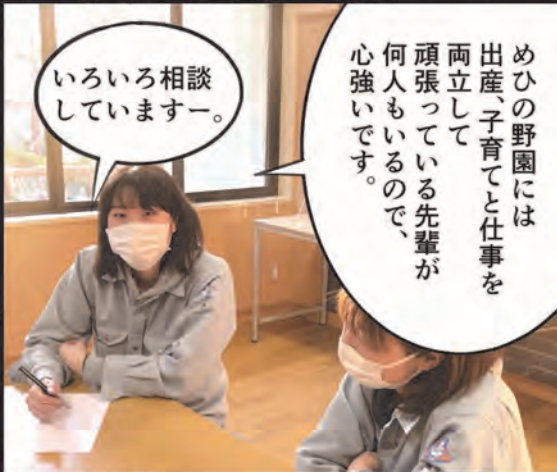
山本さんは今
妊娠されて
いるんですね

7月出産予定です。



めひの野園には
出産、子育てと仕事を
両立して
頑張っている先輩が
何人もいますので、
心強いです。

いろいろ相談
していますー。



子供の頃の夢は
「盲導犬の訓練士」
でした。

動物好き
なんです。



視覚障害のある方と
関わる仕事なので、
福祉系の学校に
進みました。

なるほどー！

実習でめひの野園に
行きました。

職員のみなさんが
生き生きと
仕事をしている様子が
忘れられず、
「めひの野園」の一員に
なりたいたいと思っただけです。

めひの野園は、
利用者さんの
得意なこと
だけでなく、

職員一人ひとりの
得意なことや
強みも
活かせる職場だと
思います。



私も
体を動かすのが好きなので、
趣味のヨガを
利用者さんと一緒に
やる時間が楽しいです。

出産、子育てと仕事、
これからのいろいろな
経験をすると
思います。

いいね!!

自分の経験を、
「女性がさらに活躍できる
職場作り」に
活かしていけたらと思います。



めひの野園後援会総会

4月17日（土）午前9時30分より開催を予定していましたが、今年度のめひの野園後援会総会は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止いたしました。

2020年度決算報告及び2021年度（福）めひの野園の事業計画につきましては、下記の通りです。

ご不明な点がございましたら、当園までお問い合わせください。

2020年度めひの野園 後援会決算書

（期間 2020.4.1～2021.3.31）

単位：円

収入の部		支出の部	
後援会費	1,487,000	送料	66,192
預金利息	11	諸費用	2,135
小計	1,487,011	小計	68,327
		本部経理区分へ	1,400,000
前年度繰越金	75,969	当期繰越金	94,653
合計	1,562,980	合計	1,562,980

会費内訳

一般会員	298件	839,000円
団体会員	63件	648,000円
合計	361件	1,487,000円

2021年度（福）めひの野園 品質方針

1. まだ手が差し伸べられていない人たちに手を差し伸べ、その障がいをよく理解し、心の扉を開いてもらえるよう歩み寄ります。
2. 自閉症の人たちへの関わりのある方と、関わりを通じた理解のある方について、常に研鑽を積みます。
3. 処遇が困難とされる自閉症の人たちに、相談支援の場、生活支援の場、就労支援の場、余暇支援の場及び地域支援の場を提供し、生涯を通じた総合的な治療・教育・援助を行います。
4. 障がい者に対して、事業計画にそって地道な実践を積み上げ、障がいのある人たちが、地域社会において共生できるように支援します。

2021年度（福）めひの野園 基本方針

1. 私たちは、「轍を踏む」のではなく、地域における障がい者福祉の世界に、新たな「轍」をつくっていきます。

- (1) 「轍を踏む」とは
 - ・先例を繰り返すこと。
 - ・前人が陥った失敗を繰り返すこと。
- (2) 「轍」とは
 - ・車が過ぎた後に残る車輪の跡。

2. 私たちは、法人及び事業所の経営改革に積極的に、かつ、先駆的に取り組みます。

- (1) 「経営の4本柱」とは
 - ・マーケティング
 - ・労務管理
 - ・財務管理
 - ・サービス管理
- (2) 「経営の5大資源」とは
 - ・人的資源（ひと）
 - ・物的資源（もの）
 - ・財務的資源（かね）
 - ・時間的資源（とき）
 - ・情動的資源（しらせ）

3. 私たちは、コロナ禍のなか、「自分自身を見つめる」という休みの意義を思い出し、自分自身に光を当てて自分を見つめ、自己究明に取り組みます。

2021年の言葉

「^き ^か ^{おん} ^ざ 帰家穩坐」

- ・ 帰家とは、我が家に帰ることで、自分の落ち着きどころのこと。
- ・ 穩坐とは、安穩に坐ることで、休みの姿のこと。

4. 私たちは、体・言葉・心のバランスをよくして、日常の五心を養っていきます。

- 「日常の五心」とは
- ・ ハイといえる素直な心
 - ・ すみませんという反省の心
 - ・ おかげさまという謙虚な心
 - ・ 私がしますという奉仕の心
 - ・ ありがとうという感謝の心

5. 私たちは、利他を積み重ねます。

- 「利他」とは
- ① 他人に利益となるように図ること。自分のことよりも他人の幸福を願うこと。
 - ② 人々に功德・利益を施して救済すること。

6. 私たちは、5S活動を定着化します。

- 「5S」とは
- ・ 整理 (いらぬものを捨てる。)
 - ・ 整頓 (決められた物を決められた場所に置き、いつでも取り出せる状態にしておく。)
 - ・ 清掃 (常に掃除をして、職場を清潔に保つ。)
 - ・ 清潔 (整理・整頓・清掃を維持する。)
 - ・ 躰 (決められたルール・手順を正しく守る習慣をつける。)

7. 私たちは、笑顔・挨拶・礼儀を心がけ、報告・連絡・相談を徹底します。

8. 私たちは、危機管理意識を常に持ちます。

2021年度(福)めひの野園 事業計画

障がい者が自らの望む地域生活を営むことが出来るよう、相談・生活・就労・余暇・地域に対する支援を充実し、一層の推進を図ることを目的として、下記の事業を計画している。

また、地域に根ざし、障がい者のニーズに即した事業所づくり、福祉サービスの提供にこれまで以上に努める。そして、「めひの野園」が主体性を持ち、自律的な経営ができるように事業展開を行っていく。

1. 2021年度事業計画

(1) 事業名 「飛騨流葉牧場」の食鳥処理機器の整備

内容・用途 現在、手作業にて行っている「飛騨地鶏」のと畜工程を機械化することにより、職員の業務省力化が図られるとともに、食鳥処理能力の向上が見込まれる。よって、外部からの食鳥処理の依頼も受けられるようになり、結果、利用者工賃の向上に繋がる。

整備費総額(業者見積額)	10,000,000円
財源内訳	助成団体未定

2. 2022年度以降の事業計画

(1) 富山市内における10箇所目のグループホームの整備

(2) 飛騨市神岡町内におけるグループホームの整備

富山県「北日本放送」社会福祉
事業基金による液晶テレビ寄贈

令和2年度富山県「北日本放送」
社会福祉事業基金により、75インチ
液晶テレビ一台が寄贈されました。

生活介護事業所「春の苑」に設置さ
れ、利用者さん達は好きなテレビ番組
を観たり、電車が好きな人は電車の
動画を観たりと、余暇活動がより充
実したものになりました。

ここに整備の報
告を申し上げると
ともに、感謝の意
を表します。



ご寄付ありがとうございました。

(2021.1.21~2021.3.31)敬称略

- | | |
|----------|--------|
| 番 定 信 弘 | 富山市 |
| 中 田 匡 | 富山市 |
| 長 井 謙 一 | 南砺市 |
| 佐藤理容院 | 富山市 |
| 日本社会事業大学 | 東京都清瀬市 |
| 富山短期大学 | 富山市 |
| めひの野園後援会 | |
| 土 井 巖 | 南砺市 |
| 坂 本 英 男 | 富山市 |
| 金城大学 | 石川県白山市 |

寄付金振込口座番号
北陸銀行呉羽支店 店番号120
普通預金6077230
社会福祉法人 めひの野園

後援会名簿

(2020.12.6~2021.3.27)敬称略

- | | |
|---------|---------|
| 鍋 島 朋 子 | 下新川郡 |
| 外 山 経 子 | 東京都八王子市 |
| 岩 見 広 行 | 富山市 |
| 輪 島 富美子 | 富山市 |
| 今 井 哲 治 | 富山市 |

後援会振込口座番号
北陸銀行五福支店 店番号140
普通預金4250590
福めひの野園後援会

来訪者

(2020.12.1~2021.3.31)敬称略

- | | |
|---------------------|-------|
| (株)ミヤマサ建設 | 宮嶋 崇之 |
| ソコテック | |
| サティファイケーション・ジャパン(株) | 高木 和憲 |
| 北話エンジニアリング(株) | 池田 昌弘 |
| (株)フードシステム | 西田 哲夫 |
| 富山福祉短期大学 | 竹脇 大樹 |
| 富山市活力都市創造部 | 恒川 貴志 |
| 富山県火災共済協同組合 | 松下 博憲 |
| 大角意匠 | 長森 智昭 |
| 北銀リース(株) | 中村 安芳 |
| (株)グアイドードリンクコ北陸 | 定広 聡 |
| 北陸銀行 | 大島 卓也 |

日本海建興(株)

- | | |
|-------|-------|
| 灰谷 久登 | 山田 仁史 |
| 横山 健嗣 | 早川 隆志 |
| 富崎 茂樹 | 奥野 拓郎 |
| 角地 実 | 古谷 俊久 |
| 松井 隆幸 | 五十嵐健昇 |
| 杉木 靖二 | 中村 博一 |
| 高原 謙 | 北森 正誠 |
| 沖村 茂 | 石田 稔 |
| 谷水 直良 | 福山 貴彦 |
| 朝倉 弘之 | 久湊 裕介 |
| 石山 彰雄 | 柴田 勝宏 |
| 金田 洋幸 | 川田 幹也 |
| 水原 洋一 | |

編集後記

今年に入って、日曜日の楽しみが一つ増えた。園長の勧めもあって、大河ドラマ「青天を衝け」を見始めたのである。ドラマの主人公で、新一万円札の肖像として知られる渋沢栄一は、数々の事業を成し遂げたその一方で、社会福祉の発展にも尽力した人物でもある。

日曜日の午後8時が近づくと、それぞれとハイボールを片手に「何か適当なおつまみはないか」と冷蔵庫を漁る…。そんな父の姿を横目に、2人の娘はそれぞれのタブレットでユーチューブに夢中になっている。昔は「テレビは一家に一台」が当たり前だったが、今や「スマホやタブレットは一人に一台」で、「チャンネル争い」なる言葉はすでに死語になったようだ。いつでも好きな動画が観られる時代になったのだが、私にとっては「リアルタイムの放映を待つ時間」も楽しみの一つなのである。

「青天を衝け」に話を戻すと、幼少期の栄一に、母・えいが言う。「人は生まれてきたその時から一人ではないんだよ。あなたが嬉しいだけじゃなくて、みんなが嬉しいのが一番なんだよ」。

ドラマで描かれるのはまだ先になると思うが、そんな母の影響もあってか、栄一は後に障害や病気を持つ困窮者のための施設「東京市養育院」を設立する。500以上の企業に携わり、77歳で実業界からは引退する栄一であるが、「東京市養育院」にだけは、生涯に渡り関わり続けたという。

(岡崎 記)